

# 酒生いきいきバス新聞

## (高尾第一編)

●発行日 平成24年9月30日  
 ●発行所 酒生地域コミュニティバス 運行協議会事務局

9月8日(土) 高尾第一自治会と酒生地域コミュニティバスを使った利用促進イベント第2弾「いきいきバスで酒生遺跡巡り」が実施されました。

当日は、成願寺町から桜川幸夫さんを語り部としてお招きし、今回の目的地「波着寺」に関する歴史を語っていただき、「波着寺跡」等を見学しました。

当日の朝は、前日とは違って何となく雲行きが怪しく、もしかすると雨が降りそうな天気模様でしたが、おそらく参加者の皆さんの日頃の行ないが良かったのでしよう、青空が見え「ホッと」担当者一同、胸をなでおろし・・・「さあ〜遺跡巡りの始まりー始まりー！」



朝9時、手作りの大きな地図やたくさんの資料を抱えて、桜川さんが登場！ 気合十分の桜川さんにこちらも負けてはいられませんなア。

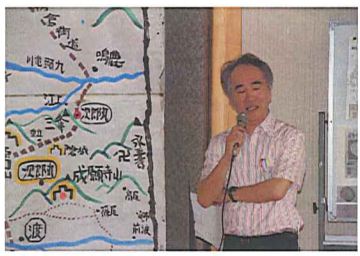
(見てください。大迫力の手作り地図です)

### いきいきバスを利用して

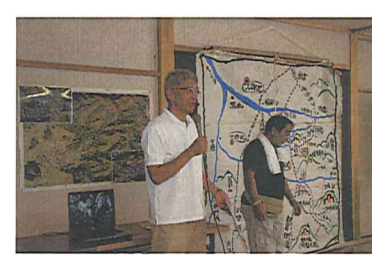
高尾第一自治会会長 前川育雄

私たちの住む酒生地区には、多くの歴史的な遺跡が点在しています。今回の企画を通して、酒生の歴史や遺跡を皆さんと共に勉強することに、よりいっそう酒生地区や私たちが住んでいる高尾の町が身近に感じ、そして今まで以上に好きになっていただけるのではないのでしょうか？

今回、大人の方から子供達まで30名近くの皆様が参加していただき、遺跡



開催にあたり、前川自治会長・清水事務局長のあいさつと桜川さんの自己紹介に引き続き、今回の目的地「波着寺」に関する簡単な基礎知識を現地出発前に約30分の講義を聞きました。



桜川さんの地元酒生地区に関する歴史や遺跡に関する熱い情熱を感じながらユーモアある語り口は、会場のみなさんが身を乗り出して聞くくらい楽しい内容でした。

や歴史の一部を参加者のみなさんと共に勉強・探索しましたが、機会があれば2回・3回と実施したいと考えていますので、今回参加できなかった皆さんも、是非次回に参加してみたいかがでしょうか？

今後もしいきいきバスを利用し、みなさまとのコミュニケーションができるいろいろな企画を考えていきますので参加・ご協力よろしくお願ひします。



バスの中は、定員いっぱいのにぎやかでした。



桜川さんの講義を真剣に聞き入る参加者のみなさん



## 一行を乗せたバスは、「波着寺跡」に到着！



波着寺跡について  
 養老年間(717〜723年)に泰澄大師により開かれ、もとは小浪山(現在の新保宮山)の麓にあった。当時、足羽川は我が字の腰を流れていたため、洪水の折には川波がこの寺の堂下まで打ち寄せ、江戸末期にはいっしょに波着寺(なみつきじ)と呼ばれるようになった。  
 《朝倉始末記》永平寺を開かれた道元禅師、加賀百万石の前田公の藩主戦勝祈願所として、現在金沢に移っている。



参加者一行を乗せたバスは、一路目的地「波着寺跡」がある！成願寺町桜谷バス停で下車。まずは、あたり一面を見渡せる場所成願寺の歴史について説明がありました。

道中では、数々の由緒ある場所を案内していただきながら、ついに「波着寺跡」に到着！

その場所は、山一面に覆われた竹やぶの前に中に凍として立っている鳥居があり、静寂で落ち着いた雰囲気の中、一時の暑さも忘れて桜川さんの説明にしばし耳を傾けました。



というところで、みなさんも自分の目で確かめ、いろいろな五重塔を想像してみたいかがですか？

ここで桜川さんとはお別れし、徒歩で木楽館へ・・・

短い時間の中で、長い歴史を知ることは難しいですが、それでも歴史の一部を参加者のみなさんと共有できたことには大変意義があったと思います。

続きあ  
 現地案内看板より・・・  
 「ここに置かれている大きな石は、かつて建立された五重塔の礎石です。大きさは、長辺26m、短辺13m、厚さ1.3mを測る立派な石で、中央には柱を据えるための孔が掘られています。柱座は、直径約88cmを測り、この大きさから、高さが30mを超える五重塔が建てられていたと考えられます。

続いて一行は次の目的地 天神の縄文遺跡〜長者館跡〜廃寺跡塔心礎がある篠尾古墳群に到着。